

1 ごみ処理の現状（令和 7 年度実績）

(1) 可燃ごみの量（家庭系及び事業系を含む。）

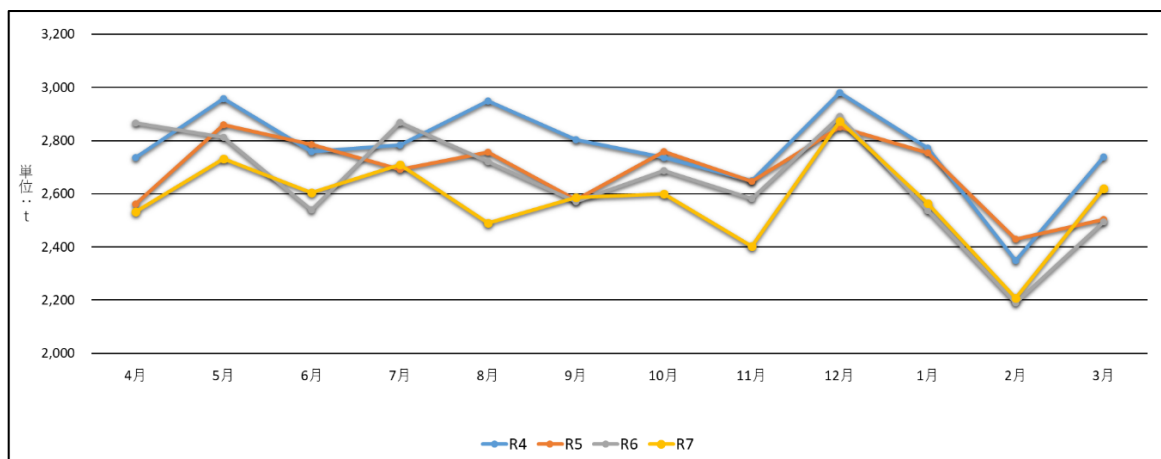
可燃ごみは年々減少傾向にあり、令和 7 年度実績も前年度実績より減少しています。

可燃ごみに不燃・粗大ごみの破碎時に発生した可燃性の部分及び栗原最終処分場から排出される汚泥を加えた焼却対象量は、ごみ処理基本計画における令和 1 3 年度の本市の計画値（32,538 トン）を下回っています。

（令和 7 年度焼却対象量実績：31,407 トン、計画値比：－1,131 トン）

しかし、令和 6 年 4 月からはだのクリーンセンター 1 施設となったことに加え、点検等により炉が停止する期間があることから、施設の安定稼働のため、引き続き可燃ごみの減量が必要です。

今年度のごみ処理基本計画の改定に伴い、焼却対象量の計画値を見直す予定です。



（単位：t）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	
R4	2,736	2,958	2,759	2,784	2,950	2,804	2,736	
R5	2,561	2,859	2,785	2,692	2,756	2,577	2,758	
R6	2,867	2,813	2,540	2,869	2,721	2,570	2,688	
R7	2,533	2,733	2,604	2,710	2,489	2,586	2,600	
	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	小計	前年比	焼却対象量
R4	2,648	2,980	2,773	2,348	2,739	33,215	－	33,742
R5	2,647	2,851	2,754	2,430	2,503	32,173	96.86%	32,686
R6	2,583	2,890	2,536	2,190	2,495	31,762	98.72%	32,046
R7	2,402	2,873	2,563	2,207	2,621	30,921	97.35%	31,407

(2) 不燃・粗大ごみの量

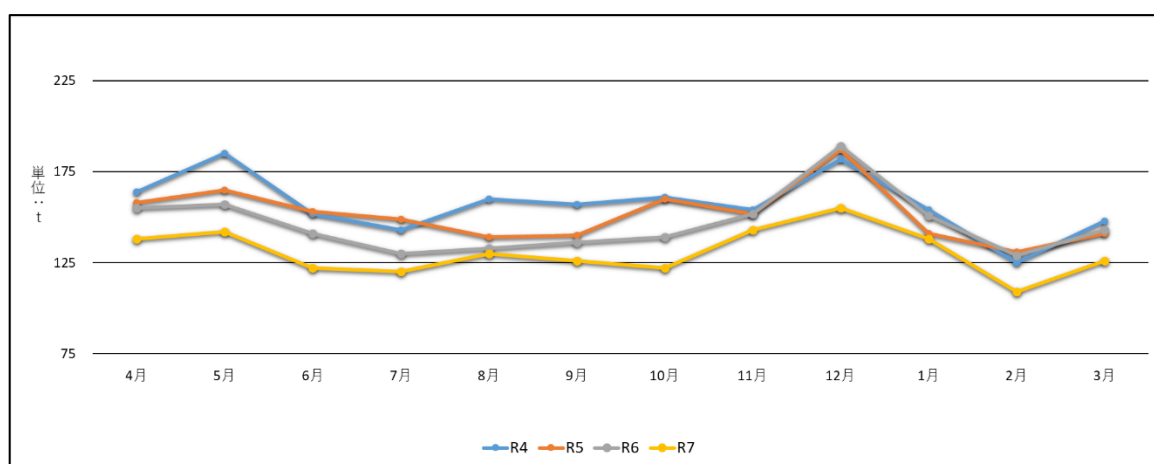
不燃・粗大ごみ量は、家庭から収集場所へ出されたり、伊勢原清掃工場へ持ち込まれた不燃ごみと、環境資源センターに持ち込まれたり、予約収集で戸別に収集した粗大ごみを合わせたものです。

年々減少傾向にあり、令和7年度実績も前年度実績より減少しています。

更なる減量のための取組みとして、公益社団法人シルバー人材センターと協定を締結し、リユース促進事業のもったいないD a yを共催で開催し、リユース品を市民に安価で提供できるようにしています。

また、リユース品の買取り業者である(株)ECOMMITとシルバー人材センターとが売買契約を交わし、もったいないD a yで売れ残ったリユース品を買取ってもらうことで、粗大ごみ処分量の減量に取り組んでいます。

もったいないD a y以外にも定期的な回収を実施しており、令和8年1月から対象品目を拡大したほか、回収頻度も毎週に変更し、更なる減量に努めています。



(単位：t)

(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	
R4	164	185	152	143	160	157	161	
R5	158	165	153	149	139	140	160	
R6	155	157	141	130	133	136	139	
R7	138	142	122	120	130	126	122	
	11月	12月	1月	2月	3月	小計		前年比
R4	154	182	154	125	148	1,885		-
R5	152	187	141	131	141	1,816		96.34%
R6	152	189	151	129	143	1,755		96.64%
R7	143	155	138	109	126	1,571		89.52%

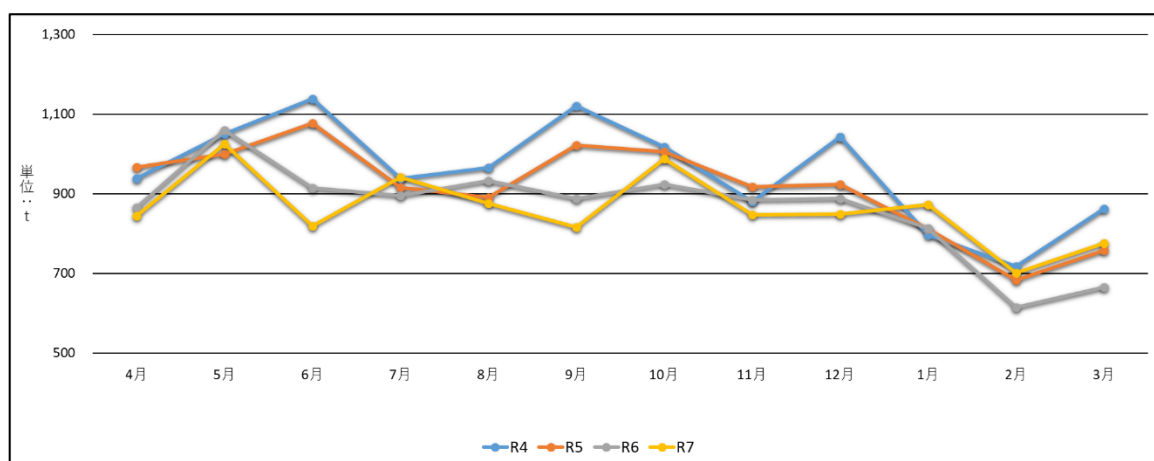
(3) 資源物の量

資源物は、古紙類、ビン、カン、衣服・布類、ペットボトル、プラスチックや草木類などで、家庭から収集場所やストックハウスに出されたものです。

なお、プラスチックについては、令和6年度までは容器包装プラスチックのみの量、令和7年度からは容器包装プラスチック及び製品プラスチックを合わせた量となっています。

年々減少傾向にありますが、令和7年度実績は前年度実績より増加しています。製品プラスチックが回収されるようになったため、その分の増加と考えられます。

また、令和7年度からプラスチックの一括回収を開始するにあたり事業を見直し、令和6年度末でPTAなどによる集団資源回収を廃止しました。



(単位：t)

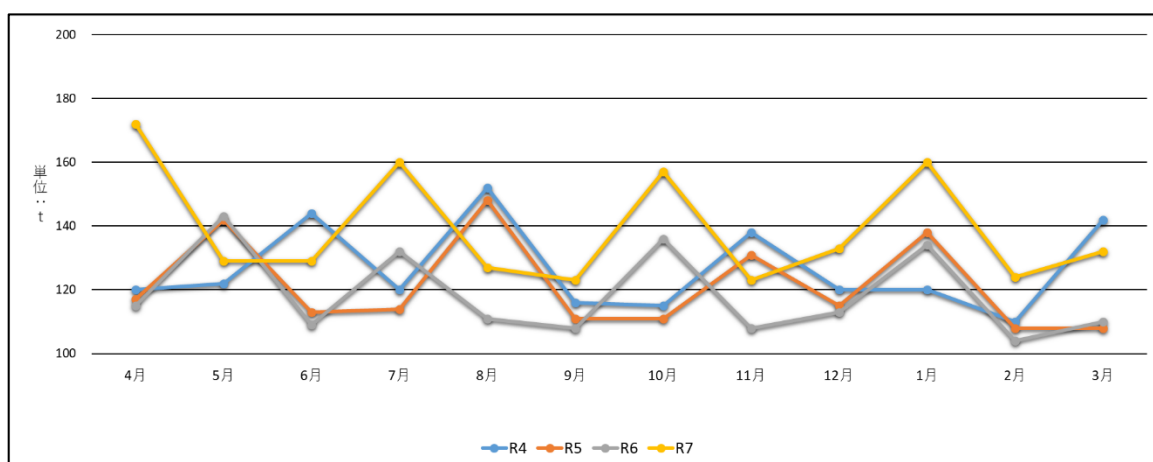
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	
R4	938	1, 051	1, 138	938	965	1, 120	1, 018	
R5	967	1, 000	1, 078	916	891	1, 022	1, 006	
R6	865	1, 059	915	895	933	888	923	
R7	844	1, 025	819	941	876	816	987	
	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	小計		前年比
R4	880	1, 043	797	718	863	11, 469		-
R5	918	923	812	683	758	10, 974		95. 68%
R6	884	888	813	614	665	10, 342		94. 24%
R7	847	849	872	701	776	10, 353		100. 11%

(4) プラスチックの量

令和6年度までは容器包装プラスチックのみの量、令和7年度からは容器包装プラスチック及び製品プラスチックを合わせた量です。

令和7年度実績は昨年度より増加しています。その原因としては、回収対象に製品プラスチックが追加されたことによる可燃ごみからの製品プラスチックの流入及び回収日の増加によるものと考えられます。

月ごとの変動については、月ごとの収集日数の増減が主な原因と考えられます。



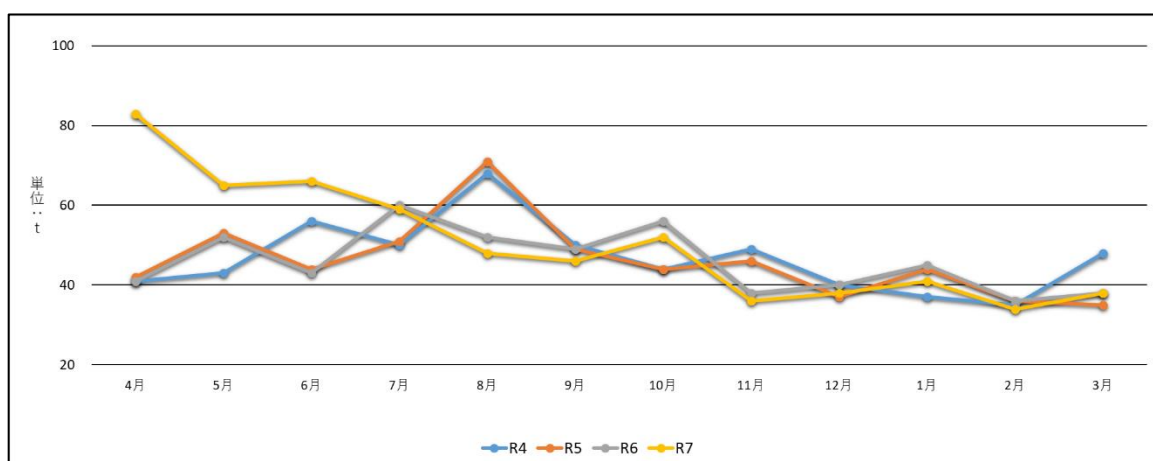
(単位：t)

(単位：t)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	
R4	120	122	144	120	152	116	115	
R5	117	142	113	114	148	111	111	
R6	115	143	109	132	111	108	136	
R7	172	129	129	160	127	123	157	
	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	小計		前年比
R4	138	120	120	110	142	1, 519		-
R5	131	115	138	108	108	1, 456		95. 85%
R6	108	113	134	104	110	1, 423		97. 80%
R7	123	133	160	124	132	1, 669		117. 29%

(5) ペットボトルの量

令和7年度実績は前年度実績より増加しています。その原因としては、4月から6月にかけて、家庭内で溜まっていたペットボトルが、回収日が隔週から毎週となったことにより、一時的に収集場所に出されるようになったことが考えられます。7月以降は落ち着き、昨年度と同じような推移となっています。



(単位: t)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	
R4	41	43	56	50	68	50	44	
R5	42	53	44	51	71	49	44	
R6	41	52	43	60	52	49	56	
R7	83	65	66	59	48	46	52	
	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	小計		前年比
R4	49	40	37	35	48	561		-
R5	46	37	44	36	35	552		98.40%
R6	38	40	45	36	38	550		99.64%
R7	36	38	41	34	38	606		110.18%

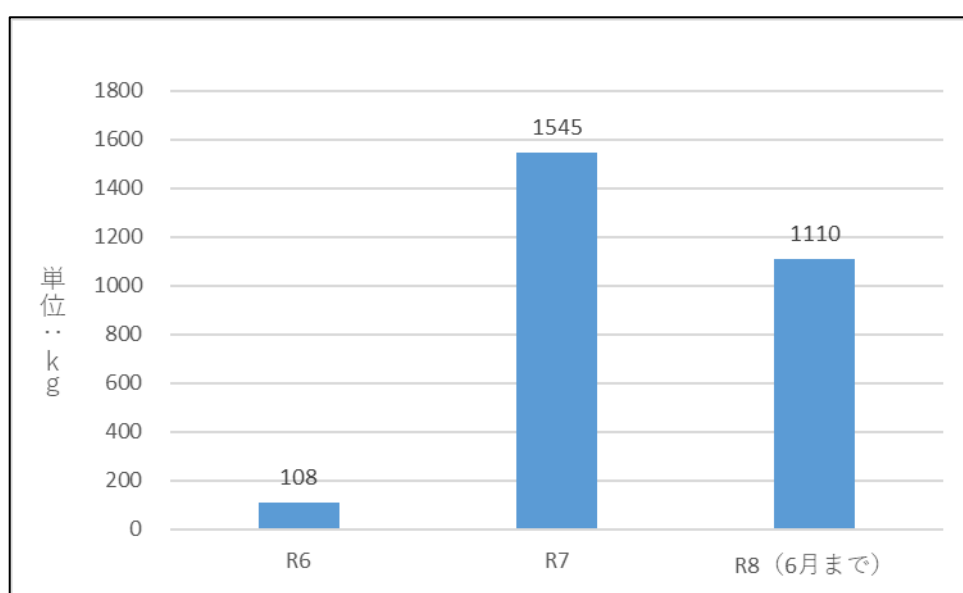
(6) リチウムイオン電池類の量

リチウムイオン電池類については、通常の収集に混入してしまうと、収集車や処理施設での火災の原因となるため、秦野市では拠点回収を令和6年度から実施し、専門の処理業者に引渡しています。

令和7年度実績は令和6年度と比べ、約1.4倍増加しています。

利便性の向上のため、令和8年2月からは環境共生課で、令和8年4月からは市内公民館での回収を開始しました。

令和8年度は6月までの実績で既に1tを超える回収をしており、今年度は昨年度をさらに上回る予測です。



(単位: kg)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
R6	-	24	-	-	21	-	-
R7	-	-	-	-	665	-	433
R8	503	503	104	-	-	-	-
	11月	12月	1月	2月	3月	小計	前年比
R6	26	-	16	-	21	108	-
R7	-	-	447	-	-	1,545	1,430%
R8	-	-	-	-	-	1,110	-